

プレスリリース (2013/7/1)

むかわ町立穂別博物館

〒054-0211 北海道勇払郡むかわ町穂別 80-6

Tel・Fax 0145-45-3141

<http://town.mukawa.jg.jp/1908.htm>

日本および北西太平洋地域から初めて フィロプチコセラス属アンモナイトを発見 新種フィロプチコセラス・ホリタイと命名

[発表のポイント]

- 北海道中央南部の平取町から日本で初めて（北西太平洋地域でも初）フィロプチコセラス属アンモナイトを発見した。
- 新種であることを明らかにし、学名を標本の発見・寄贈者の堀田良幸氏に献名し、新種フィロプチコセラス・ホリタイと命名。
- むかわ町立穂別博物館で7/2（火）から展示する。

[研究成果の概要]

むかわ町穂別在住の堀田良幸氏が平取町の白亜紀マーストリヒチアン（マーストリヒチアン）期最前期（約7, 200万年前）の地層から採集したアンモナイト（図1, 2）が、日本国内および北西太平洋地域で未発見であったフィロプチコセラス属アンモナイトであったことが分かり、また、この種類が新種であることも分かりました。この研究は国立科学博物館の重田康成（研究主幹）とむかわ町立穂別博物館の西村智弘（学芸員）の共同研究で、新種フィロプチコセラス・ホリタイ（*Phylloptychoceras horitai* Shigeta and Nishimura sp. nov.）の記載を行い、フィロプチコセラス属の進化について論じた論文を日本古生物学会欧文誌パレオントロジカル・リサーチ Paleontological Researchに投稿し、査読という専門家の審査を通して学会誌への掲載が採択され、7月1日に出版されました。

フィロプチコセラス属アンモナイトは白亜紀末期のカンパニアン期後期(?)からマーストリヒチアン期の北米カリフォルニア, チリ, 南インド, ヨーロッパ(スペイン, オランダ, デンマーク)から報告されています(図3). 今回発見したものは, これまでに報告されていた種類とは殻表面装飾(殻表面の凹凸)が異なっていることから新種であると判断し, 標本の発見・寄贈者である堀田良幸氏に献名し, フィロプチコセラス・ホリタイ *Phylloptychoceras horitai* という学名で新種を発表しました.

これまでに知られていたフィロプチコセラス属アンモナイトの最も初期の記録は, カリフォルニアから産したカンパニアン期後期あるいはマーストリヒチアン期前期のもので, これ以外の既知の標本はすべてマーストリヒチアン期後期のものでした. 今回発見した新種はマーストリヒチアン期最前期のものであることから, カリフォルニア産のものにあわせて, 北太平洋地域のものがもっとも産出時期が早いこととなります(図3). このことから, フィロプチコセラス属が北太平洋地域起源であると結論づけました. フィロプチコセラス属の祖先であると考えられるポリプチコセラス属(図4)は, フィロプチコセラス属出現以前であるコニアシアン期~カンパニアン期中ごろにかけ, 北太平洋地域に多産することからも, フィロプチコセラス属の起源が北太平洋地域であることを支持します(図3).

[備考]

フィロプチコセラス・ホリタイは, 今年北海道から新種として記載されたアンモナイトとしては, 4月に発表されたゴードリセラス・ホベツエンゼについて2例目.

この種類は, 穂別博物館収蔵資料としては, 2例目の新種アンモナイト.

ホリタイの「-イ」*horitai* 「-i」は, 学名の接尾語(男性に献名する場合).

フィロプチコセラス *Phylloptychoceras* の語源は, フィロ-*phyllo-*: 葉状(この場合, 縫合線の形状を指す), プチコセラス *ptychoceras* 直線状のシャフト状の殻が平行に並ぶアンモナイト(プチコセラス *Ptychoceras* の語源はプチコ-*ptycho-*: 折り重なる, セラス *ceras*: 角)

今回発表した新種は, むかわ町穂別に在住の堀田良幸氏が, 2008年ごろに平取町で発見・採集した標本で, 正体不明の希少なアンモナイトとして手元にお

いていた。2011年に穂別博物館に寄贈された。

4つの標本は、破断面が精密に接合しないので、複数個体（2-4個体）に由来する可能性も考えられる。図2における標本の位置復元は1個体であったと考えた場合の一つの案。図2左上に位置している標本がこの種の完模式標本（HMG-1587a）で、その他の標本は副模式標本（右上からHMG-1587b, HMG-1587c, HMG-1587d）。

[展示・普及講演]

むかわ町立穂別博物館では7/2（火）～9/29（日）までミニ展示として、新種フィロプチコセラス・ホリタイを展示します。その後、常設展示に移行します。常設展示に移した後は、調査・研究の為、標本を一時的に展示しない期間もありますので、ご了承ください。

普及講演会を8/31（土）13:00-14:00に穂別町民センター（むかわ町役場穂別支所隣接）で行います（「穂別のアンモナイト研究（13:00-13:30）」「フィロプチコセラス・ホリタイの話（13:30-14:00）」講演 西村智弘）。（先着50名）。

[論文名]

A new species of heteromorph ammonoid *Phylloptychoceras* from the lowest Maastrichtian of Hokkaido, Japan

北海道の白亜系マーストリヒチアン階最下部から産したフィロプチコセラス属異常巻きアンモナイトの一新種

[論文著者]

Yasunari SHIGETA（重田康成） 国立科学博物館 地学研究部 研究主幹

Tomohiro NISHIMURA（西村智弘） むかわ町立穂別博物館 学芸員

[掲載雑誌]

Paleontological Research（パレオントロジカル・リサーチ、日本古生物学会欧文誌）vol. 17, no. 2（第17巻 第2集），p. 173-178. 7/1 発行



図 1. 寄贈されたときの状態. 四つの破片は一つの岩石中に含まれていたが、破断面が精密に一致するかが不明であったため、1 個体に由来するものか、複数個体に由来するものか分からないとして記載した.



図 2. 新種フィロプチコセラス・ホリタイ (*Phylloptychoceras horitai* Shigeta and Nishimura, sp. nov.). 左写真・図は縫合線を示す (縫合線の説明は図 5). 背側の D の部分が深く切れ込んだ 3 分岐パターンを示すことがフィロプチコセラス属の特徴. 右写真は殻の表面装飾を示すために, 塩化アンモニウムでホワイトニングした標本.

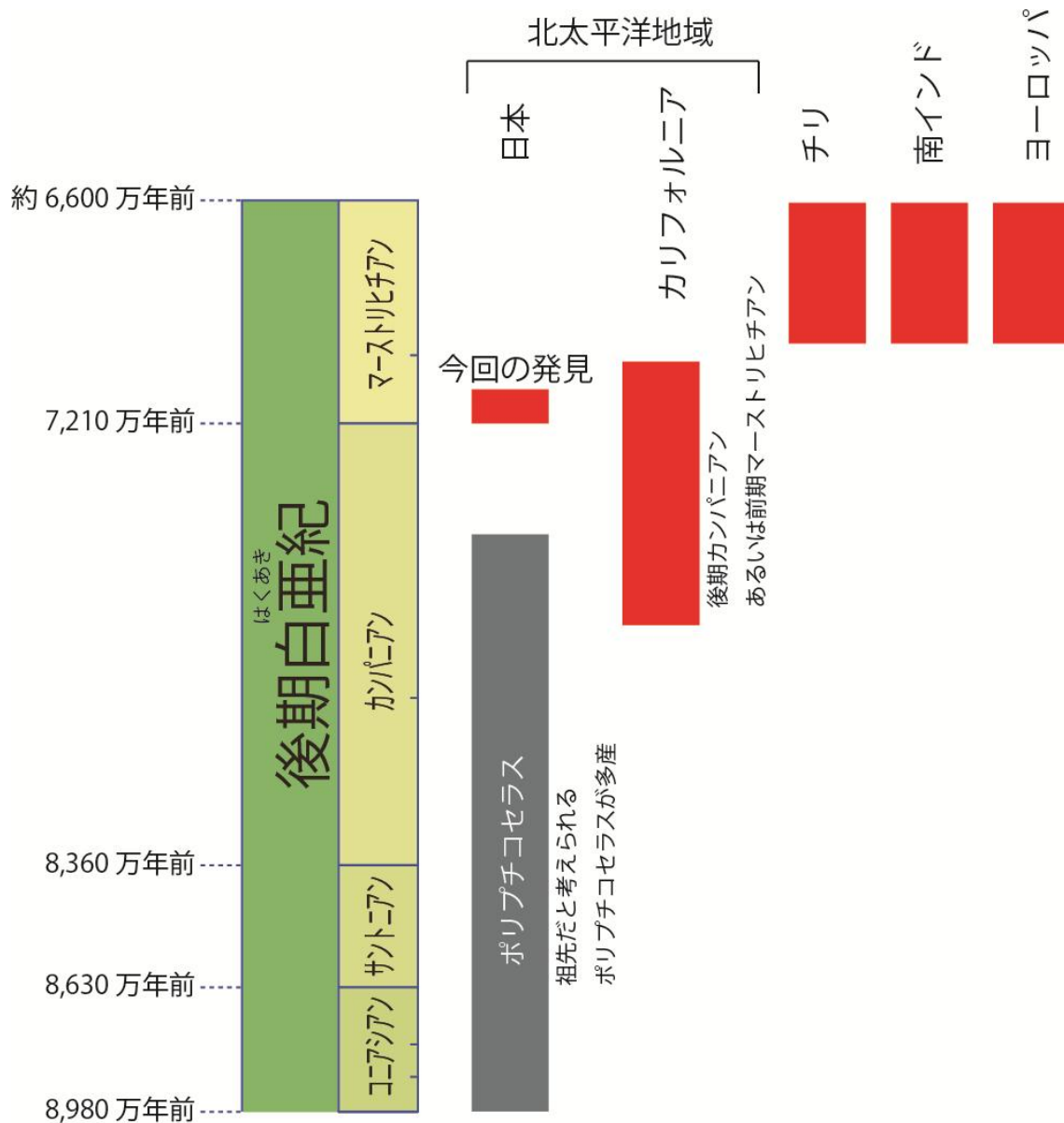
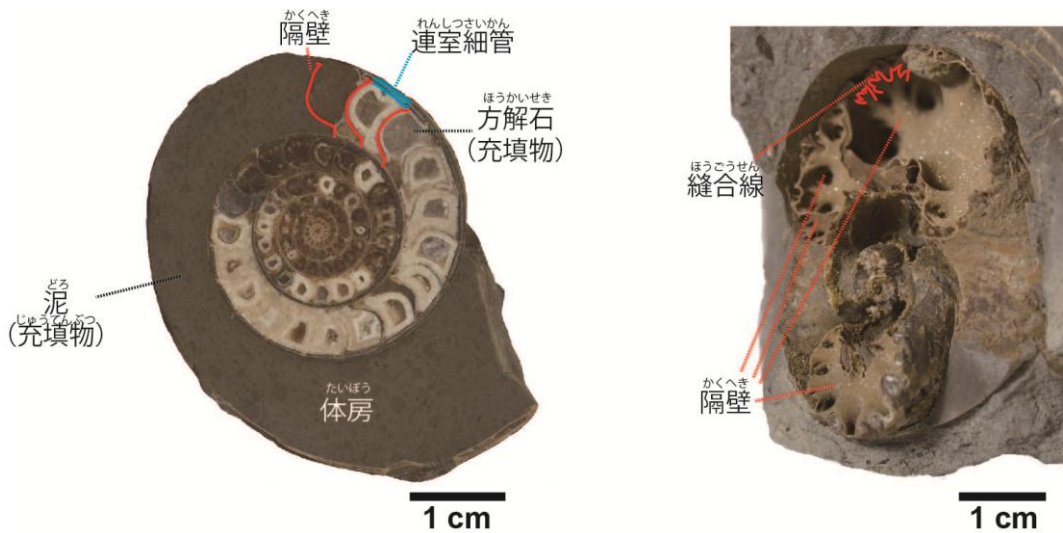


図 3. フィロプチコセラスの時空分布. 今回発見されたフィロプチコセラスは、これまで知られているもののなかで、産出時期が早い。産出層準があまり明確でなかったカリフォルニア産のものと共に、北太平洋地域産のフィロプチコセラスの産出時期がもっとも早いので、フィロプチコセラスは北太平洋起源であると考えられる。加えて祖先であると考えられているポリプチコセラス属が北太平洋地域（特に日本）から多産することも、この見解を支持する。



図4. フィロプチコセラス属の祖先であると考えられているポリプチコセラス属アンモナイト



アンモナイト化石の断面
(体房はすこしつぶれています)

殻内部の大部分が中空のまま
保存されている標本

図5. アンモナイトの殻内部および縫合線の説明. アンモナイトの殻の内部はもともと空洞 (右写真, アンモナイトが割れた標本). 殻の内部は, 隔壁で仕切られている. 隔壁と殻の接線が縫合線で, 縫合線の形状は種類ごとに決まった形状をしている.

[問い合わせ先]

むかわ町立穂別博物館 学芸員 西村智弘

Tel・Fax 0145-45-3141 E-mail: tnishimura@town.mukawa.lg.jp

[その他]

写真・図を用いる場合は穂別博物館提供であることを明記してください。

報道された場合、紙面などを穂別博物館まで郵送してください。